

ジーテクトの技術進化

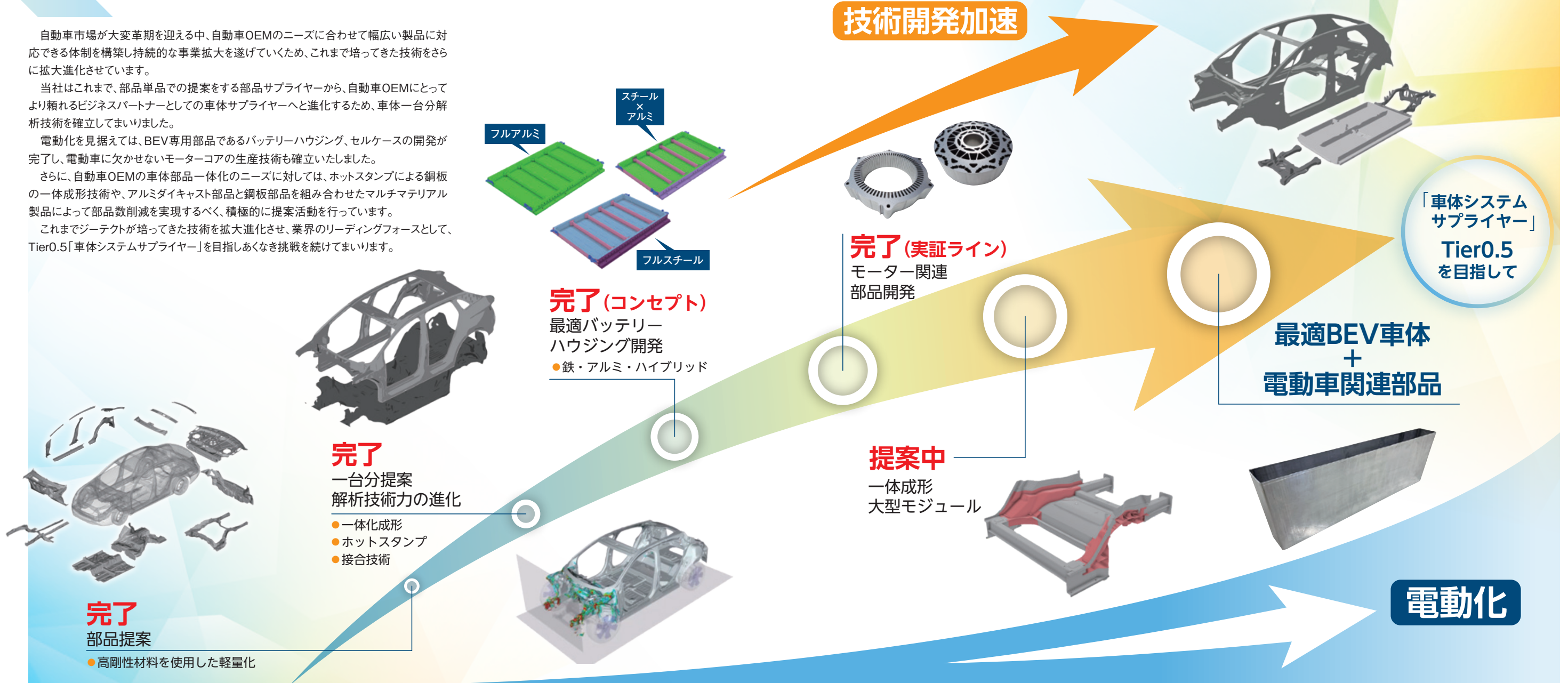
自動車市場が大変革期を迎える中、自動車OEMのニーズに合わせて幅広い製品に対応できる体制を構築し持続的な事業拡大を遂げていくため、これまで培ってきた技術をさらに拡大進化させています。

当社はこれまで、部品単品での提案をする部品サプライヤーから、自動車OEMにとってより頼れるビジネスパートナーとしての車体サプライヤーへと進化するため、車体一台分解析技術を確立してまいりました。

電動化を見据えては、BEV専用部品であるバッテリーハウジング、セルケースの開発が完了し、電動車に欠かせないモーターコアの生産技術も確立いたしました。

さらに、自動車OEMの車体部品一体化のニーズに対しては、ホットスタンプによる鋼板の一体成形技術や、アルミダイキャスト部品と鋼板部品を組み合わせたマルチマテリアル製品によって部品数削減を実現するべく、積極的に提案活動を行っています。

これまでジーテクトが培ってきた技術を拡大進化させ、業界のリーディングフォースとして、Tier0.5「車体システムサプライヤー」を目指しあくなき挑戦を続けてまいります。



車体とバッテリーハウジングの機能統合

車体は、個々の部品の機能だけでなく、一台分のBIW^{*}としての性能が求められます。乗員を衝突から保護する強度や、乗り心地を左右する剛性がその代表例です。一方、BEV固有部品であるバッテリーハウジングは、バッテリー保護のためにそれ自体に高い強度が求められます。したがって、BEVは車体とバッテリーハウジングを一括で開発することで、「最適BEV車体」とすることが出来ます。

ジーテクトは、強みである車体一台分解析技術によって、これを実現します。最新のBEVでは、バッテリーハウジングがフロアを兼ねたり、バッテリーのセルがモジュールを介さず直接バッテリーハウジングや車体に搭載される「Cell to Pack」「Cell to Body」と呼ばれる構造がとられたりしています。これらのトレンドをキャッチアップした上で、バッテリーハウジングと車体に持たせる機能の最適なバランスを見極めた仕様を提案し、受注につなげます。

*BIW (ボディインホワイト)：自動車の製造工程において、車体を構成する部品が全て溶接済みで組み立てられた状態のこと。

